

ギニア湾の安全と治安を確保する ための海上保安能力の育成



日本補正予算：2020年3月～2021年3月

予算：40万米ドル

主なパートナー：コフィ・アナン国際平和維持訓練センター (KAIPTC)、日本政府、参加国の政府と関連機関および西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)

目的

プロジェクトは、海賊行為を含め、ギニア湾における海上犯罪を取り締まるため、研究と能力育成を通じ、関連の地域・国際海事協定の効果的履行を促進することに努めます。

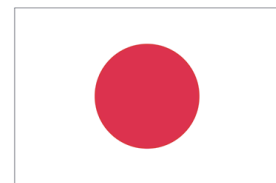
このプロジェクトの結果、国と地域レベルの海事管理当局と海上保安当局の職員は、2013年ヤウンデ行動規範に定められた数多くの海上犯罪について迅速に警報を発したり、これらの問題に対処することが可能になります。

プロジェクトの成果

- 成果1：海上犯罪に関するコース設計のためのワークショップを開催すること
- 成果2：関係各位及び対応機関間の実務・協力関係を改善するため、海事担当官の能力を強化すること
- 成果3：E海区とF海区で職員のスキル、知識および専門技術を改善すること
- 成果4：ギニア湾における海上犯罪の性質と程度に関する机上調査報告書を発表すること

SDGs への貢献

このプロジェクトは、SDGsの目標5、14、16および17に貢献します。



From
the People of Japan

開発課題

国際海運会社や乗組員、荷主、海上保険業者にとって、海賊とその攻撃による脅威が常に存在するギニア湾(GoG)は、リスクの高い海域となっています。世界には、海賊の攻撃が大幅に減少している海域もありますが、西アフリカではこれが増加傾向にあり、頻度も増えています(One Earth Futureによる海賊の現状報告書、2018年)。海賊行為の増加は2015年から2018年にかけてピークに達し、攻撃の範囲も広がったため、その予測は極めて困難になりました。2018年6月の英国放送協会(BBC)の報道によると、西アフリカの海域ではこのような攻撃が112件報告されています。海上での船舶に対するあからさまな強盗行為や石油盗難、身代金目的の拉致、さらには薬物や武器の密輸といった脅威は、この海域の暴力的無秩序をますます助長しており、ギニア湾の海上航路は地域的、国際的海運にとって危険なルートとなっています。国際海事局(IMB)の2019年報告書によると、この海域は世界的な件数の低下が見られる中でも、全世界の乗組員人質事件の86%、乗組員拉致事件の82%をそれぞれ占めています。